

社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会

〒400-0005 甲府市北新1-2-12 TEL:055(254)8610・FAX:055(254)8614

<http://www.y-fukushi.or.jp/>

だれの目にも優しいカラーユニバーサル・デザインで制作した広報誌です。

P2

【特集】 介護現場の成果と取り組み 地域と共に歩む介護

P6 ▶ みんなの地域福祉
市町村社協が実施する福祉サービス

地域を支える
ご存じですか？
「介護支援ボランティア制度」

P7 ▶ ボランティアトーク(富士吉田市介護支援ボランティア)
人の笑顔が私の喜び
誰かの役に立ち、元気に年を重ねていきたい

P8 ▶ 介護講座教室(高齢者疑似体験指導者養成研修)

P10 ▶ いきいきライフ(いきいき山梨ねりんピック)

P12 ▶ 福祉人材センターニュース(福祉の学校紹介)

P14 ▶ 福祉施設訪問(清珠荘デイサービスセンター)

P15 ▶ 福祉用具紹介



地域と共に歩む介護



南アルプス市
地域包括支援センター
吉田 真弓さん

ご本人の生活を大切に考え、
在宅で暮らしていけるように…

利用者には普段の生活があり、ご都合やお考えがあるわけですから、それを尊重することが大切。介護の計画を立てる上でも、何を補えば、今の生活をできるだけ変えないで暮らしていけるのかという視点を大切に、その足りない部分を補うサービスをうまく生活の中に組み入れて、在宅で暮らして行けるようにコーディネートするようにしています。介護保険ありきではなく、ご自分の力が十分発揮でき、さらに足りないところを補っていくという考え方ですね。

施行から10年が経って、介護保険の浸透を感じます。以前は、公的な支援を受けることに抵抗を持つ人が少なくありませんでしたが、最近は、保険料を納め、なおかつ1割負担をしてサービスを受けるといことで、気持ちの折り合いをつけておられるようですね。

ただ、今の生活を続けていくために足りない部分を補うためのサービスなのに、サービスを受けるために、自分の生活スタイルを変えなければならないというケースもあり、そうになると、高齢者にとってはかえって負担になってしまうため、介護保険だけでは解決しきれないのかなと感じることもあります。また、サービスによってはいろいろな制限があったり、介護保険を使うことでそれまで利用していた地域の支援事業が使えなくなってしまうケースもあって、残念に思うこともあります。

要支援1の方は要支援2に、要支援2の方は要介護にならないように、ということをお願いしていますが、介護保険の理想は、必要に応じて使い、必要がなくなったら使わなくなるというスタイル。「本当に困った時に使ったけれど、もう大丈夫だし、自信も持てたので、更新しなくていいよ」という人が増えるようなサポートをして行きたいですね。





介護現場の成果と取り組み

一般的にリハビリと聞くと、病気やケガをした後の機能回復のための運動というイメージを持たれる方が多いようですが、医療保険や介護保険の負担が増える中、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、足腰が弱くなって転びそうになるなどの怪我や病気になる前に、早期発見・早期予防するリハビリがとても大切になっています。

今、南アルプス市などで地域にお住まいの要介護・要支援、高齢者の方から、生活のリハビリ相談のご依頼をお受けしています。そこで感じるのは、できるだけすぐにお会いすることと、じっくりお話を聞くことの大切さ。

たとえば、「最近歩くのが辛くなってきたので、運動を教えて欲しい」という依頼でも、ご自宅に伺い、生活環境を見せていただき、お話をお聞きしてみると、原因は環境にあって家具の配置を変えるだけで対応できるケースがあったり、家族との関係を調整することが重要だったり、様々なケースがあります。また、相手の本音を引き出し、目標を設定したり、生活スタイルのアドバイスをすることも大切です。運動がお好きな方には適切な運動プログラムをご提案しますが、そうでない方に運動プログラムをご提案しても続きません。そういう方には日常のなかに原因を改善する動きや習慣を取り入れるといった提案をさせていただくようにしています。目標を持つことで気持ちが高揚し、驚くほどの改善が見られる方も少なくありません。

私の仕事の本質は、身体の不具合だけでなく、生活を制限している原因を探り、見極め、改善へのアプローチと一緒に探すことにあります。ですから、必要に応じて住宅改修を含めた環境づくりのご提案もさせていただき、地域にお住まいの方の生活がゆたかになるよう心がけています。これからも、ご本人やご家族に寄り添い、その方にとって一番良いと思われる方法をご提案させていただき、一人でも多くの高齢者のイキイキとした暮らしのお手伝いができれば、とても嬉しいです。

暮らしを支える新しい動き

地域住民のリハビリ相談事業

フリーランス
作業療法士・二級建築士
久保田 好正さん



地域の連携や行動力で乗り越えた介護の事例

Case.

1

吉田真弓さんが担当した、金丸さん(97歳)の場合

持っている力を発揮できるように環境を整え、足りないものを補う支援のおかげで、97歳の一人暮らしを謳歌しています。

平成21年2月、金丸さん(当時95歳)から、何度か転倒しケガをしたので、大事にならないうちに自宅を改装し手すりをつけたいと申請がありました。

ご自宅を訪問してみると、ご本人はとてもしっかりとして、県外で暮らす娘さんも毎月様子を見に来られ、日常生活は支障なく送れているようでした。ただ、ご自宅で何度か転倒しており、手すりの必要性は感じました。また、その他の介護保険サービスも検討しましたが、ご本人の意向もあり訪問介護、デイサービス等は、必要ないと判断できました。一人で暮らしている日常で何かあってはという心配もあり、「何かあった時に

ブザーを押すことで、近隣の方や消防署につながる緊急通報サービス」「ひとり暮らしの安否確認として、ヤクルトの宅配」の2つをご提案させていただきました。

また、外出が大変になってきているということでしたので、家に閉じこもらず、今の生活が続けられ、意欲低下を予防するために、電動カートの利用をご提案しました。なお、手すりについては、ご本人の納得を得ながら玄関や廊下などに、段階的に改修工事を行いました。

97歳になった現在も、金丸さんはお元気に一人暮らしを続けておられます。



金丸さんから…

ちょうどいい所に手すりをつけてもらい、大変便利になりました。以前のように転ぶことも無くなり、離れて暮らす娘や孫も安心して暮らしているようです。私は自分で食事を作るので、買い物は楽しみのひとつ。電動カートで少し先のスーパーまで出掛

け、その日食べたいものを買ってきます。受診についても、近医に変更して、自分で通院することができています。先日は、この電動カートで老人会の歩け歩け大会にも参加したんですよ。

最期まで自分の家で暮らしたいと思う人は多いのに、その願いが叶う人は案外少ないと聞きます。私の場合は、困ったことを相談するとすぐ来てくれる吉田さんと出会えて本当によかった。

このままこの家で、元気に暮らして行けたらと思いますね。

Case.

2

久保田好正さんが担当した、山本さん(86歳)の場合

筋肉の衰えからくる体の不具合を、簡単な体操で改善。気持ちも明るくなり、畑に出られるようになりました。

平成23年6月、以前より山本さん(当時85歳)のケアマネジャーから、「腰が重く、立ち上がるときにしんどい」と機能低下を心配している様子なので、一度訪問してもらえないかと連絡がありました。

ご自宅を訪ね、ご本人とお話をするともに、身体の状態や生活環境の確認をチェックさせていただいたところ、太ももの筋肉の衰えが原因で、立ち上がりの動作に支障が出ていることがわかりました。お話をする中で、山本さんは農業をされていたこともあり、体を動かすことがお好きなことなどがわかり、自宅で行える簡単な運動をご提案をさせていただきました。

約1ヶ月後にお訪ねしたところ、山本さんは庭先の畑に出ておられました。「床からの立ち上がりがお元気で、ホッとしました。」と話される様子も本当にお元気で、ホッとしました。

ご家族から山本さんを心配し、「デイサービスの利用を考えたい」との声が聞かれましたが、山本さんご自身は以前見学した施設の印象から気が進まない様子でしたので、運動をメインにした通所サービスをご紹介しましたところ、さっそくご利用されるようになったそうです。

あれから1年が経ちますが、山本さんは今も体調にあわせて運動しています。



山本さんから…

あのとき先生(久保田さん)と会えて、本当に良かった。先生に教えてもらったのは、すごく簡単な体操でしたけど、何日か続けるうちに、すっと立ち上がる事が出来るようになり、歩いていて

転びそうになることも無くなりました。動けるようになると、家のうらの畑に野菜を植えようという気持ちにもなりましたね。すごくありがたかったし、家族も喜んでくれました。あの体操は、今も続けていますよ。

それから、先生に紹介してもらったデイサービスの施設は、自分のペースで運動をすることが出来るので、いいですね。今も、週に2回ほど利用させてもらっています。

気軽に電話等で相談できる窓口を開設……南アルプス市の取り組み

取り組み

南アルプス市では、一人でも多くの高齢者に、住みなれたご自宅で安心安全な生活を続けていただけるよう、住宅改修やリハビリに関して気軽にご相談頂ける「住宅改修・リハビリ相談」窓口を設けています。

「住宅改修・リハビリ相談」とは、介護福祉課が窓口となって電話相談を受け、その内容を吟味した上で、作業療法士やケアマネジャーなど、適切な専門職に案件を伝えるというもので、最終的には、それぞれの専門職がご自宅を訪問して、適切な対応をとることになります。

相談者の状況によって、介護保険の

申請をお勧めするケースもあれば、家具の配置を変更する程度で対応できるので、改修は必要ないという結論に至るケースもあるそうですが、利用者からは、「どこに相談したらいいのかわからなかったのが助かった」「無料の電話相談なので、気軽に相談できた」「自分で対応しなくてよかった」などの感想が寄せられており、好評を得

ています。南アルプス市では、「介護予防は時間との勝負。放っておくと、どんどん機能が落ちるケースも珍しくありません。どんな些細なことでもいいので、気になったり、不都合を感じたりしたら、気軽に電話等で相談して欲しいですね」と話します。

山梨県介護支援専門員協会の取り組みと活動

取り組み

一般社団法人 山梨県介護支援専門員協会 会長 鷲見 よしみ さん

山梨県介護支援専門員協会は、県内で活動しているケアマネジャー（介護支援専門員）が一体となり、介護支援に関する知識・技術の普及を図ることはもちろん、ケアマネジャーの意識や資質の向上を行っています。



平成12年に介護保険制度が施行されて12年が経過しようとしています。しかし、制度の普及が先行してしまい、サービスがいくら存在し充実しても、利用者・ご家族の真に必要なサービスが提供されている、あるいは利用できていないとは限りません。



山梨県介護支援専門員協会 理事

そこで、当協会では介護保険や介護の根本である「利用者の尊厳を保ち、自立した生活が送れるために」に立ち戻り、ケアマネジメントのプロフェッショナルとして「利用者本位の支援とは何か」をテーマとし、実現するための研修会や勉強会、意見交換などを行っております。利用者本位の支援を探しだし、行動するためには、知識や技術はもちろん、利用者またそのご家族のみならず、介護に携わる人たちの意見を聞き、相手の生活や環境を見据え、真に求めているものは何なのかを考え、利用者支援を提供する必要があります。

そのため、当協会では県内の各地

域支部の協力のもと、昨年より「地域連携研究大会」を開催しています。ここでは「これからの生き方を支える～伝えよう“想”を信じよう私たちの“力”を～」を大会テーマとし、各支部からの事例の発表を行い、お互いのノウハウの向上、自身の活動の見直しを行っております。

また、当協会では県内のケアマネジャーの現任者の約9割もの人が加入しており、意識の統一や地域などにおける問題の収集・解決などを広く行うことができています。そのメリットも活かし、今後もケアマネジャーのさらなる向上を行い、利用者の真に望む暮らしの実現を目指していきます。

Q 介護保険について詳しく知りたいのですが、山梨で相談にのってくれるところはどこにありますか？

- A**
- お住まいの市町村に地域を管轄している「地域包括支援センター」が必ずあります。介護保険の利用にあたっては、こちらで相談をされるのが地域の情報を含め、最適と思われます。
(詳しくは…山梨県ホームページ「<http://www.pref.yamanashi.jp/chouju/78434634355.html>」)
 - すでに要介護認定(要介護1以上)を受けているのであれば、お近くの「居宅介護支援事業所」がどこでも相談にのってくれます。(詳しくは…介護サービス情報公表システム「<http://www.kaigokensaku.jp/>」)

講座紹介:

「介護保険制度の仕組みとサービス」

- 「介護保険」について知りたい。どこに聞けば分かるの？
- 「介護保険」って、どんなサービスがあるの？ どうすれば利用できるの？
- 「介護保険」の最新情報を知りたい。などなど

山梨県立介護実習普及センターでは、「介護保険制度の仕組みとサービス」の講座を行っております。

一般の方、介護職の方、それぞれに合わせた講座内容で、5名以上のグループでお申し込みいただければ、随時開催、また出張講座でも対応します。まずは、お気軽に山梨県立介護実習普及センター ☎055-254-8680にお問い合わせください。



誰もが住み慣れたまちで安心して生活することができる「福祉のまちづくり」の実現をめざし、各市町村社会福祉協議会では、地域環境や住民ニーズに応じて、介護保険サービスはもちろん、介護保険では対応できない様々なサービスを提供しています。社協の福祉サービスを上手に利用することで住み慣れたまちで安心して暮らしていくことができます。その福祉サービスの一部として、次の2つの社協の「介護保険適用外サービス」の取り組みを紹介します。

市町村社協が実施する 福祉サービス



- **山梨市社会福祉協議会**では、市から委託を受け「**外出支援サービス**」を実施しています。このサービスは、市内在住の65歳以上で車いす利用の方を対象とし、医療機関等へ送迎を行っております。利用者から「外出する機会が増えた」などの意見が寄せられています。
- **道志村社会福祉協議会**では、理美容院へ出かけることが困難な要介護度3以上の村内在住の高齢者に対して、理容師・美容師が自宅を訪問し、頭髮のカットなどを提供する「**訪問理美容サービス**」を実施しています。利用者やご家族からは、直接自宅まで来てくれることに大変感謝されています。

■社協が提供している主な福祉サービスのご紹介

- ・外出支援（移送）サービス ・寝具類洗濯乾燥消毒サービス
- ・訪問理美容サービス ・配食サービス（配食・会食） ・軽度生活援助事業
- ・生きがい活動支援通所事業（いきいきサロンなど） など

各社協で実施している福祉サービスの内容や利用条件などは、各市町村社協によって異なります。詳しくは、お住まいの市町村社会福祉協議会へ、お気軽にお問い合わせください。

介護支援ボランティア制度

ふじよしだささえ愛手帳



地域を **支** える

ご存じですか？ 「介護支援ボランティア制度」

2007年に運用開始された「介護支援ボランティア制度」はご存じですか？この制度は活動実績に応じてポイントを付与する制度で、高齢者のボランティア活動を視覚化し、地域貢献活動、健康で生きがいのある生活の推進を目的としています。

ここでは、活動事例として県内初導入を果たした富士吉田市の取り組みをご紹介します。同市では通称「ふじよしだささえ愛ボランティア」として事業を開始し、大きく2つの条件で参加可能です。

1. 「市内在住の65歳以上の方」 2. 「市が指定した介護施設等での活動」

ポイントは時間数に応じたもので翌年度に最大5,000円の交付金を受け取れます。現在79人が事業に登録し、日々ボランティア活動に参加しています。ポイント制という可視化がきっかけでボランティア活動に新たな喜びが生まれ健康的な生活が地域貢献、介護予防、地域住民とのコミュニケーションにつながり活動者数が徐々に増えています。

県内の同制度の普及はまだまだですが、今後は制度活用に向け、活動場所、内容の拡大、拡充など環境整備を実施しながら、より一層の強化が期待され、制度に参加する各市町村も増えています。

実施状況等はお住まいの市町村へお問い合わせください。



富士吉田市
「ふじよしだささえ愛
ボランティア」の様子

人の笑顔が私の喜び 誰かの役に立ち、元気に 年を重ねていきたい



富士吉田市
介護支援ボランティア

たきぐち りゅうこ
滝口 龍子さん (69歳)

中学生の頃、勉強会に参加したことからボランティアに興味を持った滝口龍子さん。高校時代にはユネスコクラブに所属し、養護施設などを慰問したと言います。「あれが私の青春かな」。若々しい笑顔浮かべ、楽しげに当時を振り返る滝口さん。その後結婚し、3人の息子さんに恵まれたことで、ボランティアの機会も一時は激減したそうですが、子育てが終わると同時に、状況も一変しました。

「ちょうど50歳の時でした。ポカンと穴が開いたようになって…。いわゆる空の巣症候群です。カルチャースクールに通っても満足感を得られなくて、それで改めて考えてみると、『私は人が好きなんだよね。人のお世話をして、相手の方に喜んでもらえることが、自分の喜びになるかな』って」。そう気づいたことで、前向きになれたと話す滝口さん。「誰かのお役に立ちたい」とボランティア活動を再開する一方で、活動の助けになるかもしれないと思い、ホームヘルパー2級やガイドヘルパーといった資格も取得しました。

さらに、3年前に富士吉田市に県内初の介護支援ボランティア制度が発足すると、コーディネーターの勧めですぐさま登録。「ボランティアは無償が原則ですが、スタンプによって自分の活動がはっきりと見え、励みになりますね。今まで興味のなかった人が始めるきっかけにもなる、とても良い制度だと思います。」とのことで、現在も、お年寄りの話し相手や買い物の付き添い、デイサービスの援助などに積極的に参加する日々を送っています。「ボランティアは私の元気の源。いつも楽しませていただいて、とてもありがたいなあと思っているんです。69歳になった今願うのは、可愛くて素直なお年寄りになること。こうして誰かのお役に立ちながら、明るく元気に年を重ねて行けたなら、最高に幸せですね。」と滝口さん。イキイキと輝く笑顔から、ボランティアを心から楽しんでいる様子が伝わってきて、幸せな気持ちになりました。

10代

中学生：勉強会に参加し、ボランティアに興味を持つ。
高校生：ユネスコクラブに所属し、施設などを慰問。

20代
40代

結婚、出産、子育てに忙しく、ボランティアは激減。

50歳

3人の息子が自立したことで、空の巣症候群になり、自分を見つめ直す。

50代

ボランティア活動を再開。
福祉ホールで開催される講座で、ホームヘルパー2級などの資格を取得。

66歳

介護支援ボランティア制度の発足に伴い、登録。

69歳
(現在)

人とのつながりを大切にしながら、
はつらつと人生を謳歌している。



デイサービスセンターの納涼まつり
滝口さんを含め大勢の
ボランティアが駆けつけました



手帳にスタンプを
押してもらった滝口さん



高齢者疑似体験での日常活動



平井トクジさんのお話をする新藤京子さん



高齢者の家族が工夫した住まい、福祉用具の説明



高齢者疑似体験セットを利用した企画のプレゼンテーション

介護講座教室…高齢者疑似体験指導者養成研修

高齢者への理解を深めた指導者の養成。

研修に参加して、高齢者疑似体験の指導者として、教育現場や介護関係事業で活かしましょう。

県立介護実習普及センターでは、高齢者疑似体験の指導者を養成することを目的に「高齢者疑似体験指導者養成研修」を毎年8月に2日間の日程で行っております。

研修では、高齢者疑似体験や高齢者の身心の特徴の講義、またグループに分かれ、指導員として「高齢者疑似体験」の指導方法などの企画・演習を行います。

高齢者疑似体験では、実際に手足にサポーターやおもりをつけて体を動かしたり、ゴーグルやおもりなどによって感覚機能を鈍らせ、高齢者の不便さを体験すると共に、高齢者の心と体について理解を深め、事業の計画や立案・実施ができる指導者の養成を行います。

●指導者の条件は…

- ①小・中学校などの教育現場で疑似体験を実施する指導員(主として教員)
- ②介護教室などで疑似体験を行う指導員(市町村社会福祉協議会や介護関係事業所の職員)

本年度の研修内容

1日目……………

●高齢者疑似体験

指導者として、疑似体験を行い高齢者の身心の状態を学ぶとともに、高齢者疑似体験セット(ゴーグルやおもりなどを体に付け、お年寄りの不自由さの体験ができるセット)の貸し出しの手順、セット内容の説明、それぞれの器具の意味、注意事項などを学びました。

●北杜市 百寿舎(ひゃくじゅしゃ)の訪問

百寿舎とは、100歳を越える高齢者、平井トクジさんが100歳の時に建てた、ご自身の愛育活動や趣味の記録がたくさん詰まった記念館です。参加者は、トクジさんを支える家族の想いや年をとっても生き生きと暮らすヒントを感じていました。

また、元山梨県福祉保健部保健監である新藤京子さんによる、トクジさんのお話や高齢者の家族との対談が行われ、参加者は、家族との関わりをどう持つのか、家族は高齢となった親をどう支えるのか、命をつなげることはどういうことなのかを学べた訪問となりました。

参加者の声

2日目

● 講義

高齢者の心身の変化の特徴についての講座を行い、高齢者の接し方や気持ちを学びました。

● 演習

高齢者疑似体験を企画・指導する場面をイメージした演習。グループごとに目標・テーマを立て、準備から実施・振り返りまでの段取りを話し合い、企画を行いました。それをプレゼンテーション形式で発表し、指導者や参加者よりアドバイスを受けました。

参加者は1日目・2日目の研修を通じて、「いろいろな世代の人達が共に生き、生活することで豊かさが生まれる、新しいもの古いもの、それぞれの良さがあり認め合い補い合うことで深味のある生活ができる」高齢者疑似体験がその一助になることを学びました。

高齢者疑似体験を通して、年をと

ることに対する大変さばかりではなく、周りの人との結びつきが大切であること、その為には広い世代間でコミュニケーションを図る必要があることなどを、指導者として体験者に伝えられることを期待しています。

県立介護実習普及センターでは、高齢者疑似体験指導者養成研修を2日間修了した方を対象に「高齢者疑似体験セット」を貸し出し、高齢者の目線で接客や店舗の工夫をしていただけるよう、体験セットの利用を広く呼びかけています。

お気軽にお問い合わせください。

■ お問い合わせ・お申し込みは…

県立介護実習普及センター

☎055-254-8680

※受講・貸し出しは無料。

事前の申し込みが必要です。

現在、介護施設で働いているので、今後の参考になる大変貴重な講座でした。高齢者の身体や考え方の知識を学び、実際に高齢者の疑似体験ができてより理解が深まりました。プレゼンテーションは、自分自身の考え方や流れの整理ができ、参考となりました。

1日目の新藤先生のお話から、介護の大変さやお年寄りとの接し方などを学ぶことができました。2日目の企画・発表では、計画することの大切さ、大変さを学ぶことができました。また、実際に持ち帰って、行ってみたい企画を作ることが出来ました。

11・12月 介護講座 スケジュール

お申し込み・お問い合わせは…
☎055-254-8680

- 認知症介護講座(2日間)…
11月27日(火)・12月7日(金)
- 介護ボランティア養成講座(2日間)…
11月6日(火)・7日(水)

現場訪問…子どもたちに、お年寄りと触れあう機会を

研修を修了した方が、実際に高齢者疑似体験セットをどのように利用・活用しているかを、体験セットを貸し出した富士川町社会福祉協議会に取材しました。かじかざわ児童センターで、夏休みの期間中に小学生を対象とした高齢者疑似体験を開催。かじかざわ児童センターの館長さんにお聞きしたところ、「センターにお年寄りが立ち寄ることもあり、子供たちがお年寄りと、もっと触れあう機会を持ってもらいたい」ということで今回の体験を計画したそうです。

参加者の小学生は疑似体験セットをつけ、高齢者の状

態になって「廊下や階段を歩く・本を読む・折り紙を折る・瓶の蓋を開ける・シャツのボタンを掛ける」など、日常生活動作を行いました。小学生たちは「色がわかりにくい・字が読みにくい・体が重く転びそうだ」など、高齢者の生活のしにくさなどを実感。高齢者に対して、自分にはどんなお手伝いや手助けができるかなど、考える機会となりました。

指導者は、「小学生1～2年生が対象だったので、体験セットの装着に時間がかかり、メニューがこなせなかった」、「体験が同じ場所にならないような工夫を行った」と、次回の改善点と手応えを感じていました。

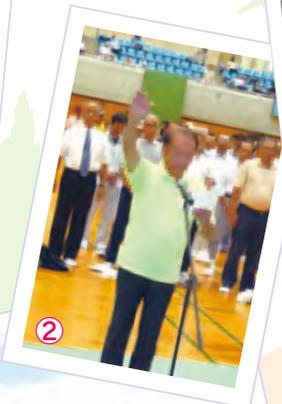


児童が体験する場合、ケガや事故が起きないように細心の注意が必要のため、指導者の他にサポートのための人員の確保が必要となります。また、ふざけてしまうこともあるため、事前に注意しておきましょう。しかし、楽しく体験ができることで、高齢者に興味をも

てもらい、高齢者と話しをしたり、触れあったりしてみようと思ってもらえることも大切です。子どもたちの優しい笑顔やお話しが、お年寄りの心と体を元気にしてくれます。ぜひ、他の児童館などでも、この高齢者疑似体験セットを利用していただきたいと思います。

9月29日(土)に「いきいき山梨ねんりんピック2012」が
甲府・小瀬スポーツ公園をメイン会場として開催されました。

今年で20回目を迎えたこの大会は「世代を超えて交流を深める」という目的のもと「いきいき山梨ねんりんピック実行委員会(事務局:山梨県社協)」が主催しています。秋晴れの中、たくさんの笑顔と笑い声に包まれた有意義な大会となりました。



The aged

この日行われた競技は、60歳以上の方々が参加できる各種スポーツ交流大会、囲碁、将棋などの文化交流大会など24種目が開催されました。開会式ではソフトテニス大会に出場した山口嘉彦選手が、「日頃の健康づくりと生きがいの成果を存分に発揮し、交流の輪を広げます」と力強く宣誓。各種目に真剣なおももちで、参加した選手たちは日頃の練習成果を発揮し大きな歓声に包まれながら交流を深めました。

Three generations

子供たちも参加できる「3世代の交流」をテーマとした催し物では、高齢者の方の指導のもと「割り箸鉄砲」や「凧づくり」など昔ながらの遊びを教える3つのコーナー「昔の遊び」「野外ゲーム」「手作り創作」を開設しました。



A pleasant time

モニュメント前広場では、子どもに大人気の「仮面ライダーW(ダブル)」とのゲーム大会や握手会などを行い、多くの親子と高齢者の方々が共に、交流を通じて楽しいひとときを過ごしました。



いきいき
ライフ

元気で楽しい
三世代をテーマに開催

いきいき山梨ねんりんピック2012



- ①秋風の中を走る(サイクリング)
- ②選手宣誓する山口嘉彦選手
- ③親子で風ぐるま作り
(昔の遊び、創作コーナー)
- ④仮面ライダーWに関するクイズ
の答えは?
(仮面ライダーWと遊ぼう)
- ⑤「それっー!」(輪投げ)
- ⑥賑わう販売コーナー
(ふるさと自慢展、展示・即売
コーナー)
- ⑦「入れー!」(ディスクゴルフ)

年齢や性別に関係なく誰でも楽しめる



DISC GOLF

ディスクゴルフ



ディスクゴルフはゴルフと名が付くだけに、基本的なルールはゴルフに似ています。ボールの代わりに円盤形のディスク、クラブの代わりに手を使い、投げて少ない投球数でカップの変わりの鎖型のバスケットを目指します。

コースは自然な地形を生かした起伏や障害物の有無、人工的に障害物を置くことで難度を高めることが可能で、子どもからお年寄りまで「年齢性別に関係なく手軽に楽しめる」ものでありながら、コース設定で上級者が要求する難易度を設定できる「新しいスポーツ=ニュースポーツ」です。



いきいき山梨ねんりんピックでも、「ニュースポーツチャレンジコーナー」で、ディスクゴルフを体験できるコーナーを設置しました。来場された多くの方々にチャレンジしていただく事ができました。手軽にできるこのニュースポーツの特徴から体験された親子からは「なかなかまっすぐに投げることが難しいけど、親子で楽しめるゲームです。」と感想を頂けました。



東京都立川市の昭和記念公園内ディスクゴルフコースは、本格的なコースとして全国的にも有名ですが山梨県内にも清里と山中湖にも、まげずおとらずのコースがあります。

秋晴れのもと、まずはおじいちゃん、おばあちゃん、お子さまなど、ご家族で是非「ディスクゴルフ」にチャレンジしてみたいかがでしょうか。



山梨県立大学人間福祉学部福祉コミュニティ学科

所在地: 〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 TEL: 055-224-5261 FAX: 055-228-6819
 ホームページアドレス: <http://www.yamanashi-ken.ac.jp/> 定員: 50名

福祉課題に立ち向かう実践力を持つ人材育成

学校
PR



新入生のフレッシュマンセミナー



介護課程の学生と授業風景



取得できる資格・免許



介護福祉士養成課程の紹介

介護福祉士養成課程で学ぶ学生は、社会福祉士と介護福祉士の2つの国家試験受験資格を目指して勉強します。授業科目数や実習時間が多いのですが、多くのことを学べ、充実した4年間を過ごします。

【在学生の学生生活紹介】

- ☆山梨県のNPOボランティアセンターを拠点に活動している甲斐縁隊^{か い え ん たい}というサークルは高校生や大学生、社会人が参加していますが、そこでボランティアイベントの企画や手伝いをしています。(2年)
- ☆ダウン症児の親の会でお手伝いをしています。少人数教育なので質問しやすく、同級生とも仲良く楽しい学生生活です。(2年)
- ☆生協学生委員会でオープンキャンパスなどの学校行事にかかわり、楽しく過ごしています。学生委員会を通し他県の大学とも交流しています。(2年)



優和福祉専門学校

所在地：〒409-3853 山梨県中巨摩郡昭和町築地新居374-1

TEL：055-268-6001 FAX：055-268-6003

ホームページアドレス：<http://yuwa.ito-gakuen.ed.jp/> 定員：40名

卒業後の主な進路：山梨県社会福祉事業団、社会福祉協議会、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障がい者支援施設、認知症対応型共同生活介護、通所介護

取得できる資格：介護福祉士

より良き福祉社会をめざして……

学校
PR

明るい校舎で、支えあう仲間と、さわやかな笑顔

本校は、国家資格である「介護福祉士」の資格が取得できる2年制の専門学校です。併せて「専門士」の称号が付与されます。

「人間の尊厳の尊重」を教育理念として、介護福祉の専門職を育成しています。「利用者本位」を基本とした介護の倫理を身につけ、その人らしい生活を支援できる広い視野を持つ専門家を育てています。

座学では……

学生の理解力に配慮した内容を精選し、授業の進め方を工夫しています。明るい教室で、楽しく学習できる充実した設備を完備しています。

演習では……

「考える力」「感じる力」「表現する力」を養うための工夫をしています。何故、その方法が良いのか、根拠を徹底的に追及し安全な技術を習得できるように工夫しています。

施設実習では……

さまざまな施設で、介護の実践を見学し、直接体験できます。介護を必要とする人がどういう人で、どのような生活をしているのか、介護の基本となる考え方や姿勢を学ぶことができます。

2年間の学校生活では……

入学後すぐに清里の大自然に触れながら、仲間との親睦を深めます。研修を通じて築いた絆は、一生の宝ものになります。年齢や様々な背景の仲間と一つの教室で、切磋琢磨しながら学びます。先輩と後輩との交流も盛んです。

就職・進学では……

確かな知識と的確な技術を身につけ、専門職としての誇りを持って、就職しています。教員とじっくり話し合いながら、100%自分にあった職場を選んでいきます。

卒業生の声……

実際に活躍している多くの先輩が学校に立ち寄り、色々な意見が聞かれます。卒業生の意見の一部を紹介します。

「学校の授業で学んだ基本的な介護の方法を使って介護することで、介護される側も介護する側も負担が最小限になる。」

「学校で勉強したことが色々な場面で生かされている。介護を通じて多くの人とのかわりを持つことができ、人間として成長できる喜びが大きい。」

地域住民との触れあい……

平成23年度から学校がある昭和町の委託を受けて、家族介護教室を企画し、地域の住民の方と触れあい、介護について楽しく学んでいます。



社会福祉法人

清珠会 清珠荘デイサービスセンター

清珠荘デイサービスセンターは、甲府盆地の南西部、市川三郷町六郷地区に位置します。市川三郷町では、全国的に見ても高齢化率が高く31%となっていますが、「やすらぎづくり・日本一の暮らしやすさを目指して」をキャッチフレーズに、福祉や健康づくり事業に力を入れています。その中でも当センターは、豊かな自然に囲まれた静かな環境の中にあり、快適な生活環境のもとで明るく楽しく生活が送れるよう、日当たりや風通しを考慮した施設の中、個々を尊重した家庭的な介護を実践しています。

事業内容は、高齢者を対象に、ご家族の介護負担を軽減するための要介護者の通所による受入れ、要支援者が要介護状態になることを防ぐための予防デイサービスを行っています。そのため、事業所ではリハビリ・栄養改善指導・口腔ケア指導・送迎・食事・レクリエーション活動の開催などのサービスを提供。また、医師が運営する施設なので、定期的な健康管理も利用者にとって大きな安心感となっています。

心身ともに閉ざされがちな生活に「楽しみ」「希望」「安心」をもった「くらし」ができるよう、食事では栄養士による「ふるさと」を感じる手作りの郷土料理などの提供や、利用者の希望を聞いてショッピングや外食などの機会を多くしたり、音楽の先生や理学療法士による心身療法も取り入れています。9月に行われた敬老会では、職員全員で懐メロの合唱や施設オリジナルの演劇「うらしま太郎」を披露し、利用者と一緒に職員も盛り上がりました。

また、ボランティア活動の受け入れも盛んで、清珠荘ボランティアの団体も3団体結成され、20年以上にわたり班ごとに清拭布たたみや施設の行事などに協力しています。

最後に所長の川野利幸さんは言います「利用者と職員が同じ目線でふれあえる機会を多くとって絆を深めたい。高齢者が何を望んでいるか見つけたして、介護と介護予防の両方から支援していきたい」と。



高齢者が何を望んでいるかを、
介護と介護予防の両面から支援。

福祉施設 訪問

施設概要

施設名	社会福祉法人 清珠会 清珠荘デイサービスセンター
理事長	高橋 英尚
住所	〒409-3244 西八代郡市川三郷町岩間5000
電話	0556-32-3838
FAX	0556-32-3830
URL	http://www.10ocn.ne.jp/~seijusou/
設立	平成3年10月1日
敷地面積	6765.13㎡
延床面積	2325.07㎡
建物構造	鉄骨コンクリート造 平屋建て
定員	30名
関連施設	指定介護老人施設 清珠荘(併設) 指定短期入所生活介護事業所 清珠荘 久遠の里



～ちょっと寄り道～

富士川クラフトパーク



地域の活性化拠点にもなっている大規模公園です。園内には、自由に走り回れる芝生広場をはじめ、大型遊具を楽しめる岩遊具広場、気軽に楽しめるバーベキュー場やカヌー場、森林浴にぴったりの自然観察の森、植木で作られた巨大迷路、花々の競演が美しい大花壇などがあります。梅、桜、ツツジ、アジサイなど季節の花々が咲き、清珠荘の利用者もお花見を楽しみにしています。平成22

年3月には、新たな魅力の一つとして、「富士川・切り絵の森美術館」が開館し、切り絵界を代表する一流作家の作品を企画展と常設展で楽しめます。

また、園内にある「道の駅富士川ふるさと工芸館」では、陶芸やガラス工芸、手漉き和紙、印刻といった峡南地域ならではの伝統工芸が体験できます。2月ごろ行われる「峡南地区高齢者作品展」には、清珠荘からも毎年出品しています。

特殊寝台・床ずれ防止用具



在宅での介護を助けてくれる、特殊寝台や床ずれ防止用具。介護される人が快適に過ごせ、介護する人の負担が少しでも軽減できるよう、さまざまな機能が備わっています。

あると便利なグッズたち

福祉用具紹介 4

Check 特殊寝台って？

寝返りを助けるベッド柵や、起き上がりや立ち上がりを補助するベッドクリップ（介助バー）さらには、電動モーターによる背上げ機能やひざ上げ機能、高さ調整機能など、介護の負担を軽減する便利な機能が満載の特殊寝台。それぞれの生活目標に応じて機能や付属品を選定することで、より快適な理想のベッドにすることが出来ます。

在宅介護ベッド

1. 和夢（なごむ）“純”

価格：354,000円（非課税）

生活支援用ベッドに求められる卓越した機能と確かな操作性を搭載した、先進のベッドシリーズ。生活空間に違和感のないモダンなデザインで和室にも洋室にもフィットし、ご自宅の雰囲気と損ねることもありません。県立介護実習普及センターに「ケアモーションタイプ」のベッドが展示してありますので、介護される方にも、介護する人にも優しい機能の数々を、ぜひ一度お試しください。

和夢
純
ZELIN

2モーター
3モーター

低床
25cm

シングル幅
90cm

充実の機能とモダンなデザイン



Check 床ずれ防止用具って？

大きな苦痛を伴う床ずれ。床ずれ防止は重要なケアの一つですが、自宅でご家族が行うには大変な負担を伴います。最近では体圧を分散することで床ずれを防止するマットが販売されていますので、必要に応じて利用してみたいかでしょう。なお、ご本人の状態によって、適切なマットが異なります。間違った選択をすると、今できている動作が出来なくなる危険もありますので、利用にあたっては必ずケアマネジャーに相談した上で、最適な機種を選んでください。

エアマット・エアポンプ・専用カバーセット

2. エアマスター トライセル

価格：134,400円（非課税）

床ずれ防止用具として注目されるエアマット。その核となるエアセルは、体圧分散効果を高めるためにはある程度の厚みが必要なのですが、厚すぎると安定感が損なわれ、マット上での動きやすさや介護のしやすさが半減するというデメリットも抱えています。

安心して背上げができる

トライセルの2層式縦長エアセル「アクティブセル」は、上層部の空気が下層部へと流れ、広い面で体を支えるため、抜群の安定感を実現。従来叶わなかった、高い体圧分散効果と安定感の両立に、見事に成功しています。

背上げ対応機能
トリプルシステム
二層式エアセル



check

高価な特殊寝台や床ずれ防止用具ですが、介護保険の福祉用具貸与のサービスを利用すれば、レンタル費用の1割負担で利用できます。ただし、要介護1および要支援1・2の方は原則として対象となりませんのでご注意ください。まずは、ケアマネジャーに相談してみましょう。

問い合わせは、

山梨県立介護実習普及センター

TEL 055-254-8680

FAX 055-254-8690

まで。

体験コーナー 開設中

今回ご紹介した福祉用具は山梨県立介護実習普及センター（山梨県福祉プラザ1階）展示室で実際に体験していただけます。

お気軽に
お問い合わせください。



この広報誌の作成費の一部は赤い羽根共同募金配分金により発行されています。

イベント・ご案内

日常生活自立支援事業のご案内

**「最近物忘れが、ひどくなった」
など感じることはありませんか？**

- 介護保険や福祉サービスの利用手続きが分からない、お金のやりとりや、預金の出し入れに自信がない、通帳や年金証書などの大事なものをなくしてしまうなどの不安には地域の社会福祉協議会の生活支援員等が確かなサービスでお応えしています。
- 日常生活自立支援事業は、県内に在宅または施設利用あるいは入院生活をされている認知症高齢者、知的障がい・精神障がいのある方々などのうち、自身の決定能力が低下しているため、様々な福祉サービスを適切に利用することや金銭管理がうまくできない方を対象とした福祉サービス利用援助事業です。

利用を希望される方は、お住まいの地域の社会福祉協議会にご相談ください。

■お問い合わせ先…

福祉振興課 生活支援担当
(地域福祉権利擁護センター)

☎ 055-254-1820

第60回山梨県社会福祉大会

本県の社会福祉関係者が一堂に会し、今日までの社会福祉の発展に功績のあった個人・団体等を表彰し感謝の意を表するとともに、これからの社会福祉の推進方策を探ることを目的として開催します。

■主催…山梨県社会福祉協議会

山梨県共同募金会

■期日…平成24年12月3日(月)

午後1時30分～3時30分

■会場…山梨県立県民文化ホール

大ホール

〒400-0033

甲府市寿町26-1

☎055-228-9131

■参加…どなたでも参加できます

■内容…第一部：大会式典

第二部：記念講演

第二部講師：公益財団法人

さわやか福祉財団理事長

掘田 力 さん

■お問い合わせ先…

総務企画課 企画・広報担当

☎ 055-254-8610

報告・ご寄附

善意をありがとう

NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド(中村維夫理事長)様から県社会福祉協議会に対して、500,000円のご寄付をいただきました。同団体からの寄付金は、累計で42,000,000円となります。

寄付金は、山梨県民間社会福祉基金として積み立てます。また、その一部を予算化し、福祉救援などの事業を実施するために活用させていただいています。ありがとうございました。



株式会社NTTドコモ山梨支店の木戸博也支店長(右)から寄付金を受け取る県社協の窪田守忠常務理事

■お問い合わせ先…

総務企画課 企画・広報担当

☎ 055-254-8610

図書紹介

『イラスト わかりやすい移動のしかた(患者と介助者のために一)』

■著書：井口恭一氏 ■発行者：三輪 敏氏 ■価格：2,400円

■発行所：株式会社 三輪書店 東京都文京区本郷6-17-9 ☎03-3816-7796

家庭のなかで、いずれ介護(移動動作)をする機会が訪れます。そこで今から、介護にとまなう基礎知識を学びましょう。また、初めて介護を行うが難しく悩んでいる方、自己流で行っている方、専門的に介護を行っている方でも、日常や業務に追われてしまい、力まかせで行ってしまっている事があるかもしれません。そのため、身体に無理がかかり腰痛になってしまうなど、肉体的・精神的にも身心を崩してしまいがちになってしまいます。これは、介護側はもちろん介護の受側にも負担となってしまいます。

そのようなことを回避するために、身体の機能を活かし、円滑に動作できるように、基礎知識や基本技術などを学習することができます。

この他、介護・看護・福祉についての本・雑誌268冊、ビデオ・DVD188本の貸し出しを行っています。

詳しくは県立介護実習普及センターにお問い合わせください。 ☎055-254-8680

小さな芸術家たち

「第32回児童文化奨励絵画展」から

(全国児童養護施設協議会主催)

〈県代表作品〉

■題名：「かぶと虫をとるべく」

■施設名：めだかの学校ジュニア

■学年：小学2年

■審査員のコメント：樹の幹、虫を捕ろうとしている子ども達の動きがよく表現されている。

